

「健診と連携したナッジ糖尿病予防プログラム」

麒麟ビール健康保険組合 令和5年度中間報告 (2/3)

R4年度事業の効果検証

- 前糖尿病状態における重要な臨床的目的は、糖尿病への移行を抑制することである。そこで、糖尿病進行の診断基準となるHbA1c変化量を評価指標として採用し、1年後の健診結果を用いて介入事業のアウトカム評価を行う。
- 今回は、1年後（R5年）の健診結果を用いてR4年度介入事業のアウトカム評価を行う。

①傾向スコアマッチングを用いた効果検証

1) 対象者

- a) R4年の健診結果で前糖尿病（HbA1c5.7～6.4%、糖尿病治療薬なし、特定保健指導対象外）として抽出された対象者1,015名。
- b) このうち、プログラム参加者は287名、プログラム非参加者は728名。

2) 手法

- a) 参加者と傾向スコアマッチした非参加者について、1年後の健診結果を用いて、**HbA1c 0.2%以上の改善割合を評価した。**
- b) 傾向スコアで考慮したベースライン変数：HbA1c、年齢、性別、体重、血圧、LDLコレステロール、喫煙、降圧剤、脂質異常薬

3) 結果

- a) マッチされた参加者と非参加者でのHbA1c改善割合を比較すると、割合差は+3.0 %-points（95%信頼区間 -3.5 to +9.4）となった。

アウトカム評価までのフロー



